両親の愛情の認知と困った場面における自己開放性についての一研究

久世敏雄　　続　有恒
蔭山英順[1]ほか　過疎研究グループ

I 問　題

青年期は，人格の再体制化の時期と考えることができる。この時期において，青年は，日常接触する人たちから，さまざまの社会的強化をうけながら，自己を形成していく。この観点にたって，青年の人格形成を考えるとき，青年が他者との相互作用を可能にするためには，青年は，そもそも，どの程度，自己を他者に開放しているかの問題がある。

この個人的情報を他人に打ち明ける行為ともいうべき，自己開放性（self-disclosure）は（Jourard. S. M. 1971），青年期において，どのような様相を示しているのであろうか。青年は，自己に影響を及ぼすであろう両親や親友たちに，どの程度，自己を開放するのか，さらに，その自己を打ち明ける程度は，情報の内容，種類によって差異があるのか等，さまざまの疑問が生じてくる。従来，青年期は，自己閉鎖的傾向の強い時期といわれており（依田1963），そのことが，青年の周囲の人びととの摩擦を，必要以上に生じさせているとも考えられる。

青年の自己開放性に関しては，すでに，Jourard. S. M. たち（1958）によって検討され，日本においても，加藤（1965）によって調査されている。そして，これらの研究で取り扱かわれた自己開放性は，青年が両親や親友たちに，どの程度，自己を打ち明けているかの，いわば，現実場面における自己開放性である。そこで，われわれは，困った場面，困難な事態において，青年がどの程度，周囲の人びとに自己を開放するかを問題にした。そして，大学生に関して，実態の一部を報告した（久世・蔭山1972）。そこで明らかにされた事実は，

(1) 大学生は，困った場面において，自己開放的ではない。とくに，男子は女子に比べ，その傾向が顕著にみられる。

(2) 対人別自己開放性の程度は，男女とも，親友にもっとも開放的であり，先生にもっとも開放的でない。父母，兄弟姉妹の家族に対して，男子は，ほぼ同程度，自己を開放しているが，女子は，特に，母親が自己開放の対象になっている。

(3) 領域別自己開放性の程度に関して，「進学・就職」の領域は，他の6領域に比べ，自己開放的である。

等ということであった。また，中学生について，蔭山らによって報告されている（1973蔭山・続・久世ほか）

われわれは，そのさい，青年の自己開放性の程度に関連する要因の検討も，あわせ行なった。そこで取り扱かった要因の一つとして，両親の養育態度がある。もともと，両親の養育態度に関しては，従来から，さまざまの研究がなされているが，これらの研究は，両親の愛情（affection）の側面と統制（control）の側面に，大別されるように思われる。われわれは，Doster, J. A たち（1968），Jourard. S. M（1971）等の研究を参照しながら，青年が両親に自己を開放する程度は，両親の養育態度とかかわることを予想し，両親の愛情と統制・力（power）の要因を取り上げている。すなわち，青年が両親に対して自己を打ち明ける程度は，青年の両親についての愛情および力（信頼感）の認知と関連をもつことを予想した。

(1)父母から暖かい愛情のある養育をうけていると認知する青年は，そうでないと認知する青年にくらべ，父母に対して，困った場面における自己開放の程度が高い。

(2)父母の力を信頼できると認知する青年は，そうでないと認知する青年にくらべ，父母に対して，困った場面における自己開放の程度が高い。

ここでの主題は，このうち，前者に関するものであり，以下その報告である。

II 方　法

1. 質問紙作成の手続き

困った場面における自己開放性を調べるために，「家庭生活」，「身体・性格」「勉強・成績」，「友人関係

1) 名大大学院教育学研究科教育心理学専攻博士課程学生

（異性関係を含む）」，「学校生活（教師関係を含む）」，「進学・就職」，「人生・社会観」の7領域，21項目で構成された質問紙を作成し，各項目について，父，母，兄弟姉妹，親友，先生にどの程度，自己を打ち明けて話すかを記述させる。打ち明ける程度は，Jourard. S. M たち（1958）を参考に，次の三段階の基準を用いて記述させる。

0：全然打ち明けない。

1：どんなことで困っているかということだけを打ち明ける。

2：すべて打ち明ける。したがって，その人は，あなたがどんな事で困っているかをよく知っている。

この自己開放性に関する質問紙作成の手続きは，すでに報告した論文（久世・蔭山1972）にくわしく述べられているので，それを参照されたい。

つぎに，両親の愛情の認知は，Heilbrun. A.B（1964）のいう8つの様式（mode）を参考に作成した。それらは，つぎのとおりである。

i）愛情Ⅰ—被験者が感ずる愛情の程度

ii）愛情Ⅱ—被験者に対して表現される身体的な愛情の程度

iii）被験者の是認とかれの行動

iv）パーソナルな感情や経験の共有（sharing）

v）被験者に与える具体的物品（例えば贈物・金）

vi）責任を果たしたり，個人的興味を追求したりするときの被験者への激れい

vii）被験者におかれる信頼

viii）両親との関係において被験者の感ずる安全感

以上のようにして作成された質問紙は，附票に示した。

附　票

調　　査　　Ⅰ

調査月日　　昭和46年＿＿＿月＿＿＿日

＿＿＿＿＿学校＿＿＿年＿＿＿組　男・女

氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

父あり・なし　　母あり・なし　　一人子である・ない

（いずれかに○印をつける）

〔Ⅰ〕あなたのお父さんやお母さんについて，日ごろ感じていることをつぎの8つにまとめましたので，父および母に対して，それぞれの項目でもっともあてはまるところに一つづつ○印をつけてください。どうしてもきめられない時は，どちらでもないの所へ○印をつけてください。父のない人は父の解答欄を，母のない人は母の解答欄をそのままにしておいてください。なお，それぞれの質問項目は，解答欄にも番号をしておきましたので，間違いのないようにしてください。

1. 父（母）は，私のことをいろいろ心配してくれる。
2. 父（母）の態度，行動は，とてもりっぱで感心している。
3. 父（母）は，私の嬉しいことや悲しいことを同じように喜んだり，悲しんだりしてくれる。
4. 父（母）は，私の誕生日には贈物をくれたり，ほしいものをよく買ってくれる。
5. 私が勉強や一つのことに熱中しているとき，父（母）は，いつもはげましてくれる。
6. 父（母）は，とくにけがや病気のときなど，とても心配してくれる。
7. 私は，父（母）を信頼している。
8. 私は，父（母）と一緒にいるとなんとなく安心できる。

	父			母		
	そう思う	どちらでもない	そう思わない	そう思う	どちらでもない	そう思わない
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						

〔Ⅱ〕つぎに「困った場面」を21こ，あげました。それらの問題は，あなたがたの生活ではしばしばおこる問題です。それらをよく読んで以下の問に答えてください。

(1) あなたが現在，これらの問題で困っていても，困っていなくても，その問題で困った場合を仮定（想像）してください。あなたはその場合，困った状態を父，母，兄弟姉妹，親友，先生にどの程度うちあけますか。うちあける程度をつぎの3段階にしたとき，21このそれぞれの問題について，父・母・兄弟姉妹・親友・先生にうちあける程度を0，1，2の数字のどれか1つを○印でかこんで答えてください。

0. 全然うちあけない。
1. どんなことで困っているかということだけをうちあける。
2. すべてうちあける。したがって，その人はあなたがどんなことで困っているかをよく知っている。

注　意

(i) 父あるいは母や兄弟（姉妹）のない人は解答欄をそのままにしておいてください。
(ii) 兄弟（姉妹）が2人以上いるときは，そのうち親しい兄弟（姉妹）についてかいてください。
(iii) 先生は，担任の先生についてかいてください。

困った場面	(1) うちあける程度				
	父	母	兄弟姉妹	親友	先生
1. 家庭内にもめごと，不和のあるとき	0 1 2	0 1 2	0 1 2	0 1 2	0 1 2
2. 両親が無理解なとき	0 1 2	0 1 2	0 1 2	0 1 2	0 1 2
3. 家の経済状態について気になるとき	0 1 2	0 1 2	0 1 2	0 1 2	0 1 2
4. 身体的な面や容姿について気になるとき	0 1 2	0 1 2	0 1 2	0 1 2	0 1 2
5. 性についての知識があいまいなとき	0 1 2	0 1 2	0 1 2	0 1 2	0 1 2
6. 自分の性格について気になるとき	0 1 2	0 1 2	0 1 2	0 1 2	0 1 2
7. 上手な勉強の仕方がわからないとき	0 1 2	0 1 2	0 1 2	0 1 2	0 1 2
8. 成績の悪い科目があるとき	0 1 2	0 1 2	0 1 2	0 1 2	0 1 2
9. 勉強とクラブ活動を両立させたいとき	0 1 2	0 1 2	0 1 2	0 1 2	0 1 2
10. 信頼する友だちがえられないとき	0 1 2	0 1 2	0 1 2	0 1 2	0 1 2
11. 友人といさかい（けんか・口論）をしたとき	0 1 2	0 1 2	0 1 2	0 1 2	0 1 2
12. 異性との交際について不安のあるとき	0 1 2	0 1 2	0 1 2	0 1 2	0 1 2
13. 先生の忠告がすなおにうけとれないとき	0 1 2	0 1 2	0 1 2	0 1 2	0 1 2
14. 先生の教え方について納得しにくいことがあるとき	0 1 2	0 1 2	0 1 2	0 1 2	0 1 2
15. 学校生活に，はりあいがないとき	0 1 2	0 1 2	0 1 2	0 1 2	0 1 2
16. 進学しようか就職しようか迷ったとき	0 1 2	0 1 2	0 1 2	0 1 2	0 1 2
17. どの学校に進学すべきか迷ったとき	0 1 2	0 1 2	0 1 2	0 1 2	0 1 2
18. どの職業を選択しようか迷ったとき	0 1 2	0 1 2	0 1 2	0 1 2	0 1 2
19. 人生いかに生くべきかよくわからないとき	0 1 2	0 1 2	0 1 2	0 1 2	0 1 2
20. 学生運動が正しいかどうか判断できないとき	0 1 2	0 1 2	0 1 2	0 1 2	0 1 2
21. ある宗教の信者になるべきか迷っているとき	0 1 2	0 1 2	0 1 2	0 1 2	0 1 2

2. 整理の観点ならびに調査対象

われわれは，両親の愛情の認知と困った場面における自己開放性の関連を検討するため，つぎの諸点から検討する。

(1)両親の愛情の認知と自己開放性（総得点）

(2)両親の愛情の認知と対人別自己開放性

(3)両親の愛情の認知と父，母に対する領域別自己開放性

つぎに，調査対象は，長野県・熊本県の過疎地域および名古屋市の中学2年生および大学生である。有効調査人員* は，過疎地中学生男子44名，女子45名，名古屋市中学生男子166名，女子164名および大学生男子194名女子201名である。以下，名古屋市内中学生および大学生の結果をのべる。なお，大学生の調査は，昭和46年9月上旬，名古屋市内中学生の調査は，昭和47年2～3月に実施した。

＊われわれは，自己開放性の実態とその要因を検討する目的で同じ被験者に調査Ⅰ，Ⅱを実施した。そのため，両調査を実施した者で，さらに，両親健在であり一人子でない，被験者を有効調査人員とした。

Ⅲ 結　果

結果の整理は，自己開放性に関して，「全然打ち明けない」に0点，「どんなことで困っているかということだけを打ち明ける」に1点，「すべて打ち明ける。したがって，その人はあなたがどんなことで困っているかをよく知っている」に2点を与えて得点化した。したがって，得点の高いほど，自己開放的であることを意味している。

表1は，父，母，兄弟姉妹，親友，先生のそろっている被験者―両親健在であり，兄弟姉妹のいる被験者―について，7領域，21項目の総得点の平均（M）ならびに標準偏差（SD）を中学・大学別，男女別に示したものである。全項目とも2に記入した場合の最高可能得点は，210点になる。

おいても，全般的にみて，従来の指摘どおり，自己を開

表1　自己開放性

学校別	性別	M	SD
中　学	男　子	64.67	36.22
	女　子	85.18	35.12
大　学	男　子	58.41	32.31
	女　子	91.08	34.36

表1によれば，中学生および大学生は，困った事態においても，全般的にみて，従来の指導どおり，自己開放しない傾向がある。しかし，この傾向には，明らかに男女差がある。男子は，女子よりも自己を開放する程度が少ない。

また，両親の愛情の認知に関して，「そう思わない」に1点，「どちらでもない」に2点，「そう思う」に3点を与えて得点化した。したがって，得点の高いほど，両親の愛情の認知の高いことを意味している。

表2は，父および母について，8項目の総得点の平均（M）ならびに標準偏差（SD）を，中学・大学別，男女別に示したものである。それゆえ，この得点は，8点から24点の間で分布することになる。

表2　両親の愛情の認知

学校別	父母別 / 性別	父 M	父 SD	母 M	母 SD
中　学	男　子	18.81	3.26	19.70	3.07
	女　子	19.54	3.37	20.79	2.70
大　学	男　子	18.29	3.07	19.25	2.62
	女　子	19.03	3.19	20.37	2.55

表2によれば，中学生および大学生による両親の愛情の認知は，かなり高く，父母に対して，好意的な感情を示している。なお，父母に対する男女間の差異をみると女子は，男子に比べ，若干高い傾向がある。

つぎに，表2をもとに，中学・大学別，男女別，父母別に，平均から0.5δ以上を，認知した愛情の高い群，平均から0.5δ以下を，認知した愛情の低い群，平均から±0.5δのはばを，愛情の普通群として，それらの各群に含まれる得点の分布および人員を示せば，表3のとおりである。

1. 両親の愛情の認知と自己開放性（総得点）

表4は，父または母に対する愛情の高低別に，自己開放性の総得点（父，母，兄弟姉妹，親友および先生の合計）の平均（M）ならびに標準偏差（SD）を，中学・大学別，男女別に示したものであり，表5は，自己開放性を愛情の高低群ごとに検定した結果を示している。

表4および表5から，父または母の愛情の認知の高い群は，父または母の愛情の認知の低い群に比べ，自己開放性の高いことがわかる。このことは，中学生および大学生の男子，女子ともにあてはまる。したがって，父または母から，暖かい愛情のある養育を受けていると認知する青年は，愛情の少ない養育を受けていると認知する青年に比べ，父，母，兄弟姉妹，親友および先生を含め

表3　両親の愛情の得点分布および人員

学校別	愛情	性別	男子 父 得点分布	男子 父 人数	男子 母 得点分布	男子 母 人数	女子 父 得点分布	女子 父 人数	女子 母 得点分布	女子 母 人数
中学	低い		8～17	51	8～18	51	8～17	32	8～19	37
	普通		18～20	60	19～21	60	18～21	79	20～22	80
	高い		21～24	55	22～24	55	22～24	53	23～24	47
大学	低い		8～16	50	8～17	42	8～17	53	8～19	53
	普通		17～19	72	18～20	86	18～20	78	20～21	68
	高い		20～24	72	21～24	66	21～24	70	22～24	80

表4　父または母の愛情の認知と自己開放性

学校別	父母別	愛情	性別 男子 M	男子 SD	女子 M	女子 SD
中学	父	低い	44.37	29.10	61.09	33.94
		普通	65.42	29.47	89.15	31.77
		高い	82.69	38.98	93.81	34.18
	母	低い	47.33	32.90	69.30	39.75
		普通	65.80	32.56	87.15	31.10
		高い	79.53	36.02	94.34	33.52
大学	父	低い	41.92	27.43	69.75	28.95
		普通	58.56	26.68	95.12	33.06
		高い	69.71	35.53	102.73	32.24
	母	低い	39.02	24.04	75.81	31.63
		普通	59.59	27.73	93.18	35.63
		高い	69.20	36.63	99.41	31.57

表5　自己開放性の検定結果（愛情の高低群間）

学校別	父母別	性別 男子	性別 女子
中学	父	＊＊	＊＊
	母	＊＊	＊＊
大学	父	＊＊	＊＊
	母	＊＊	＊＊

表中＊印は5％　＊＊印は1％水準で有意差のあることを示す。＊，＊＊印に関しては，以下同様である。

た総得点についての自己開放の程度の高いことを指摘することができる。

2．両親の愛情の認知と対人別自己開放性

表6は，父または母に対する愛情の高低別に，対人別自己開放性―父，母，兄弟姉妹，親友および先生―の平均ならびに標準偏差を，中学・大学別，男女別に示したものであり，図1，図2，図3および図4は，それらを高低群について図示したものである。また表7は，対人別自己開放性を，愛情の高低群ごとに検定した結果を示している。

表6，表7，図1，図2，図3および図4から，父または母の愛情の認知の高い群は，父または母の愛情の認知の低い群にくらべ，父，母，兄弟姉妹，親友および先生のそれぞれに，自己開放性の高いことを示している。そして，父または母の高低群間の差は，父，母ほど大き

表6　父または母の愛情の認知と対人別自己開放性

学校別	性別	父母別	愛情	父 M	父 SD	母 M	母 SD	兄弟姉妹 M	兄弟姉妹 SD	親友 M	親友 SD	先生 M	先生 SD
中学	男子	父	低い	8.14	7.40	11.16	8.76	6.96	8.57	12.98	8.72	5.14	5.23
			普通	13.85	7.98	16.55	7.96	12.02	11.28	16.02	8.29	6.98	6.76
			高い	19.45	9.83	21.02	10.32	15.15	12.46	16.20	8.39	10.87	9.14
		母	低い	10.35	9.77	11.33	8.93	7.65	10.40	12.65	7.76	5.35	6.15
			普通	13.75	7.96	15.92	8.31	12.55	11.41	15.90	9.03	7.68	7.26
			高い	17.51	9.80	21.55	9.69	13.93	11.47	16.64	8.29	9.91	8.53
	女子	父	低い	6.69	6.82	17.22	10.75	12.44	12.86	20.97	10.61	3.78	4.46
			普通	15.08	8.79	25.10	8.43	17.32	13.06	24.70	9.25	6.96	6.40
			高い	18.74	9.05	24.45	10.22	17.04	11.83	23.72	9.49	9.87	8.22
		母	低い	10.57	9.39	16.03	9.73	14.24	13.56	23.32	11.15	5.14	6.05
			普通	15.36	8.64	24.76	8.70	16.75	13.09	23.74	9.46	6.54	6.33
			高い	16.55	10.10	26.72	9.36	17.04	11.37	23.77	8.85	10.23	8.02
大学	男子	父	低い	6.32	6.52	8.66	7.12	5.22	6.58	16.90	8.96	4.82	5.73
			普通	9.11	5.67	10.49	6.15	11.29	9.13	21.56	9.50	6.11	6.12
			高い	14.15	8.19	13.68	8.63	12.25	11.71	21.13	9.91	8.50	7.79
		母	低い	5.83	5.61	6.55	5.84	5.86	7.85	15.90	8.88	4.88	5.67
			普通	10.01	6.05	10.81	6.34	10.12	8.73	21.77	9.13	6.88	6.79
			高い	13.41	8.94	14.67	8.55	12.73	11.88	20.88	10.16	7.52	7.43
	女子	父	低い	8.13	7.33	16.25	9.46	14.49	10.38	25.55	7.80	5.34	4.51
			普通	15.50	8.22	23.19	8.57	19.72	11.87	28.47	8.13	8.23	7.14
			高い	19.89	8.98	25.91	10.08	20.20	12.23	29.03	8.87	7.70	5.74
		母	低い	11.58	8.68	15.81	8.20	16.26	11.86	25.98	8.30	6.17	4.89
			普通	15.01	8.69	22.03	9.13	19.46	12.44	28.81	7.96	7.87	6.80
			高い	17.46	9.83	26.85	9.61	19.19	11.18	28.39	8.70	7.53	6.26

く，とくに，父の愛情の高低群間の差は，父への自己開放性において，母の愛情の高低群間の差は，母への自己開放性において，もっとも顕著である。このことは，中学生および大学生の男子，女子ともにあてはまる。

したがって，父または母から暖かい愛情を受けていると認知する青年は，父または母から暖かくない愛情を受けていると認知する青年に比べ，父または母に対して，自己開放の程度が高いであろうとする予想は，支持されたものといえる。

また，父または母から暖かい愛情のある養育をうけて

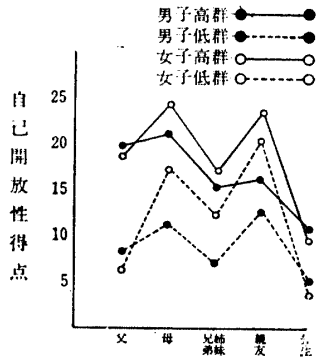

図1　父の愛情の認知と対人別自己開放性（中学生）

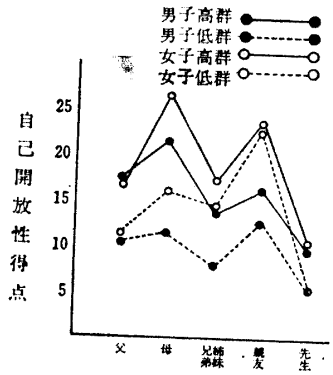

図2　母の愛情の認知と対人別自己開放性（中学生）

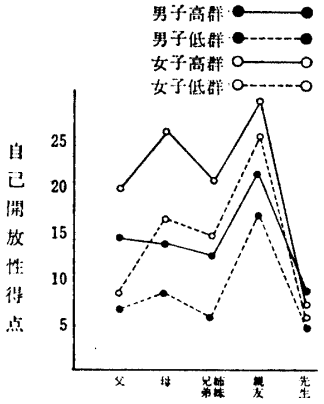

図3　父の愛情の認知と対人別自己開放性（大学生）

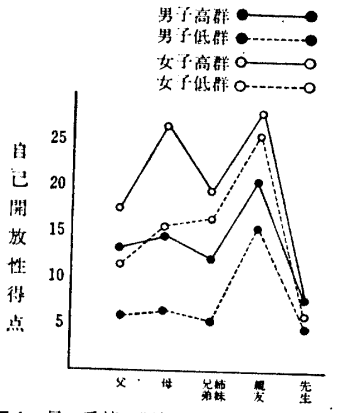

図4　母の愛情の認知と対人別自己開放性（大学生）

いると認知する青年は，父または母と親友のどちらに，より多く自己を開放するかを表6からみると，中学生に関しては，父または母から暖かい愛情のある養育を受けていると認知する青年は，父または母への自己開放性が親友に比べ高い―ただし，女子の父の場合を除く―。しかし，大学生に関しては，青年は，親友に対して，父母より，はるかに自己開放的である。

3.　両親の愛情の認知と父，母に対する領域別自己開放性

表8は，父または母の愛情の認知の高低別に，父または母に対する領域別―家庭生活，身体・性格，勉強・成

表7　対人別自己開放性の検定結果（愛情の高低群間）

学校別	性別	対父母別 ＼ 対人別	父	母	兄弟姉妹	親友	先生
中学	男子	父	＊＊	＊＊	＊＊		＊＊
		母	＊＊	＊＊	＊＊	＊	＊＊
	女子	父	＊＊	＊＊			＊＊
		母	＊＊	＊＊			＊＊
大学	男子	父	＊＊	＊＊	＊＊	＊	＊＊
		母	＊＊	＊＊	＊＊	＊	
	女子	父	＊＊	＊＊	＊＊	＊	＊
		母	＊＊	＊＊			

績，友人関係，学校生活，進学・就職，人生・社会観一の自己開放性の平均ならびに標準偏差を中学・大学別，男女別に示したものであり，図5，図6，図7および図8は，それらを，高低群について図示したものである。また，表9は，父または母に対する領域別自己開放性を，愛情の高低群ごとに検定した結果を示している。

表8　父または母の愛情の認知と父または母に対する領域別自己開放性
（数値は平均，なお括弧内数値は標準偏差をあらわす）

学校別	性別	父母別	愛情＼領域別	家庭生活	身体・性格	勉強・成績	友人関係	学校生活	進学・就職	人生・社会観
中学	男子	父	低い	1.06(1.26)	0.55(1.02)	0.98(1.46)	0.45(0.96)	0.90(1.39)	2.94(2.22)	1.25(1.74)
			普通	1.70(1.66)	1.23(1.37)	2.02(1.78)	0.73(1.25)	1.23(1.46)	4.38(1.84)	2.55(1.77)
			高い	2.56(2.03)	2.05(1.91)	2.91(1.98)	1.38(1.61)	2.25(1.75)	5.16(1.44)	3.13(2.04)
		母	低い	1.76(1.64)	1.24(1.39)	1.78(1.79)	0.63(1.22)	1.35(1.67)	3.06(2.22)	1.51(1.87)
			普通	2.32(1.80)	1.58(1.54)	2.50(1.65)	1.07(1.40)	1.78(1.57)	4.45(1.75)	2.22(1.83)
			高い	2.93(2.01)	2.67(1.83)	3.31(1.82)	1.67(1.80)	2.80(1.63)	5.07(1.54)	3.09(1.93)
	女子	父	低い	0.94(1.56)	0.25(0.66)	0.75(1.22)	0.28(0.72)	0.50(1.00)	2.50(2.32)	1.47(1.89)
			普通	1.57(1.59)	0.97(1.23)	2.14(1.89)	0.90(1.29)	1.67(1.82)	4.84(1.76)	2.99(2.10)
			高い	2.34(1.82)	1.23(1.38)	2.85(1.96)	1.36(1.45)	2.42(1.75)	5.04(1.87)	3.51(2.14)
		母	低い	2.19(1.75)	1.92(1.71)	1.76(1.76)	1.38(1.55)	2.00(1.83)	4.41(2.05)	2.38(1.99)
			普通	3.13(1.84)	3.36(1.45)	3.59(1.60)	2.74(1.77)	3.24(1.87)	5.31(1.34)	3.40(2.05)
			高い	3.53(1.78)	3.40(1.53)	3.79(1.97)	3.09(2.10)	3.57(2.02)	5.45(1.41)	3.89(1.80)
大学	男子	父	低い	1.46(1.64)	0.30(0.73)	0.54(1.04)	0.20(0.57)	0.46(0.92)	2.68(2.08)	0.68(1.29)
			普通	1.94(1.37)	0.63(0.79)	0.83(1.11)	0.33(0.78)	0.72(1.08)	3.67(1.80)	0.99(1.31)
			高い	2.32(1.70)	1.07(1.38)	1.67(1.60)	0.85(1.34)	1.58(1.68)	4.58(1.59)	2.08(1.79)
		母	低い	1.69(1.57)	0.60(0.85)	0.67(1.06)	0.33(0.78)	0.67(1.02)	2.02(1.81)	0.57(0.93)
			普通	2.33(1.41)	1.00(0.99)	1.05(1.24)	0.57(0.92)	1.02(1.32)	3.72(1.87)	1.13(1.26)
			高い	2.94(1.60)	1.50(1.42)	1.68(1.48)	1.21(1.55)	1.59(1.65)	4.17(1.73)	1.58(1.73)
	女子	父	低い	1.23(1.47)	0.43(0.71)	0.87(1.23)	0.34(0.78)	1.89(1.37)	3.06(2.06)	1.32(1.86)
			普通	2.40(1.67)	0.96(1.20)	1.83(1.81)	0.81(1.09)	1.73(1.66)	4.71(1.63)	3.06(2.08)
			高い	2.79(2.01)	1.49(1.24)	2.34(1.96)	1.49(1.59)	2.66(1.92)	5.36(1.27)	3.77(1.99)
		母	低い	2.72(1.61)	2.06(1.56)	1.68(1.53)	1.34(1.48)	1.68(1.30)	4.57(1.76)	1.77(1.60)
			普通	3.49(1.66)	3.10(1.78)	2.53(1.80)	2.28(1.71)	2.65(1.70)	5.21(1.44)	2.78(2.01)
			高い	3.93(1.77)	3.91(1.72)	3.03(1.77)	3.49(2.05)	3.31(1.87)	5.35(1.29)	3.84(1.92)

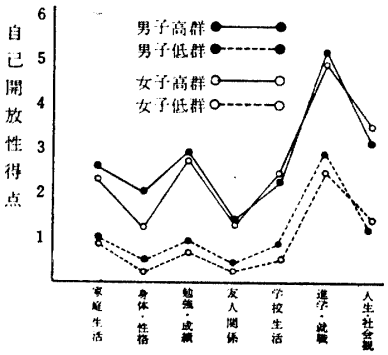

図5　中学生の父に対する領域別自己開放性

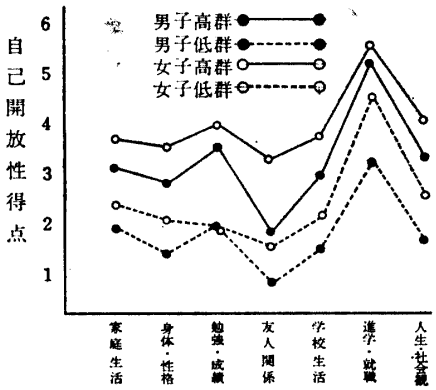

図6　中学生の母に対する領域別自己開放性

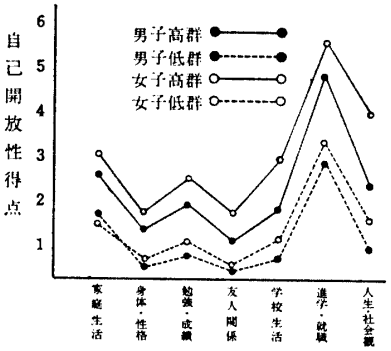

図7　大学生の父に対する領域別自己開放性

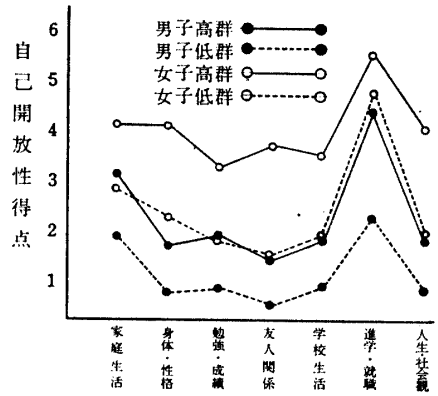

図8　大学生の母に対する領域別自己開放性

表8，表9，図5，図6，図7および図8から，父または母の愛情の認知の高い群は，父または母の愛情の認知の低い群にくらべ，父または母に対する各領域―家庭生活，身体・性格，勉強・成績，友人関係，学校生活，進学・就職，人生・社会観―ともに，自己開放性の高いことを示している。このことは，中学生および大学生の男子，女子ともにあてはまる。

したがって，このことは，父または母から暖かい愛情を受けていると認知する青年は，暖かくない愛情を受けていると認知する青年に比べ，父または母に対するすべての領域において，自己開放性の程度の高いであろうとする予想を支持する結果といえる。

表9　父または母に対する領域別自己開放性の検定結果（愛情の高低群間）

学校別	性別	父母別	家庭生活 父	家庭生活 母	身体・性格 父	身体・性格 母	勉強・成績 父	勉強・成績 母	友人関係 父	友人関係 母	学校生活 父	学校生活 母	進学・就職 父	進学・就職 母	人生・社会観 父	人生・社会観 母
中学	男子	父	**		**		**		**		**		**		**	
		母		**		**		**		**		**		**		**
	女子	父	**		**		**		**		**		**		**	
		母		**		**		**		**		**		*		**
大学	男子	父	**		**		**		**		**		**		**	
		母		**		**		**		**		**		**		**
	女子	父	**		**		**		**		**		**		**	
		母		**		**		**		**		**		**		**

表10は，中学・大学別，男女別，父または母の愛情の認知の高低別に，父，母および親友に対する自己開放性を，各領域ごとにくらべた結果を順位で示している。

表10から，父または母から暖かい愛情を受けていると

表10　父または母の愛情の認知と父，母および，親友に対する領域別自己開放性（順位）

学校別	性別	父母愛情別	対人別	家庭生活			身体・性格			勉強・成績			友人関係			学校生活			進学・就職			人生・社会観		
				父	母	親友	父	母	親友	父	母	親友	父	母	親友	父	母	親友	父	母	親友	父	母	親友
中学	男子	父	低い	2	1	3	3	2	1**	3	2	1**	3	2	1**	3	2	1**	2**	1	3	3	2	1*
			普通	2	1	3	3	2	1**	3	1	2	3	2	1	3	2	1	1	2	3	1	2	3
			高い	②**	1	3	②	1	3	②	1	3	3	2	1**	3	2	1**	①**	2	3	①*	2	3
		母	低い	2	1**	3	3	2	1	3	2	1	2	3	1**	3	2	1**	1.5	1.5**	3	2	3	1
			普通	2	1	3	3	2	1	3	2	1	3	2	1	3	2	1	1	2	3	1	3	2
			高い	2	①**	3	2	①**	3	3	①	2	3	2	1*	3	2	1	2	①**	3	2	①	3
	女子	父	低い	3	1	2	3	2	1**	3	2	1**	3	2	1**	3	2	1**	3	1	2	3	2	1**
			普通	3	1	2	3	2	1	3	2	1	3	2	1	3	2	1	2	1	3	3	1	2
			高い	②	1	3	3	2	1**	3	2	1**	3	2	1**	3	2	1**	①**	2	3	①	3	2
		母	低い	3	1	2	3	2	1**	3	2	1**	3	2	1**	3	2	1**	3	1	2	3	2	1
			普通	3	1	2	3	2	1	3	1.5	1.5	3	2	1	3	2	1	2	1	3	3	1.5	1.5
			高い	2	①**	3	3	①	2	3	2	1	3	2	1	3	2	1	2	①**	3	3	①	2
大学	男子	父	低い	2	1	3	3	2	1**	3	2	1**	3	2	1**	3	2	1**	3	2	1	3	2	1**
			普通	2	1	3	3	2	1	3	2	1	3	2	1	3	2	1	2	3	1	2	3	1
			高い	②*	1	3	3	2	1**	2	3	1**	3	2	1**	2	3	1**	①**	2	3	2	3	1**
		母	低い	2	1*	3	3	2	1**	3	2	1**	3	2	1**	3	2	1**	2	3	1	2.5	2.5	1**
			普通	2	1	3	3	2	1	3	2	1	3	2	1	3	2	1	1	3	2	2	3	1
			高い	2	①**	3	3	2	1**	2.5	2.5	1**	3	2	1**	3	2	1**	1	②**	3	2	3	1**
	女子	父	低い	3	1	2**	3	2	1**	3	2	1**	3	2	1**	3	2	1**	3	1	2	3	2	1**
			普通	3	1	2	3	2	1	3	2	1	3	2	1	3	2	1	2	1	3	2	3	1
			高い	②	1	3	3	2	1**	3	2	1**	3	2	1**	3	2	1**	②**	1	3	2	3	1**
		母	低い	3	1	2	3	2	1**	3	2	1**	3	2	1**	3	2	1**	2	1*	3	2	3	1**
			普通	3	1	2	3	2	1	3	2	1	3	2	1	3	2	1	2	1	3	2	3	1
			高い	2	①**	3	3	①	2	3	2	1**	3	2	1*	3	2	1**	2	①**	3	3	2	1**

表中*，**印は愛情の高低それぞれの群ごとに，父または母と親友の領域別平均値の差の検定結果を表わしている。

認知する中学生男子は，父または母に対して，親友に比べ，家庭生活，身体・性格，勉強・成績，進学・就職および人生・社会観の5領域の自己開放性が高い。また，中学生女子は，父または母に対して，家庭生活，進学・就職，人生・社会観および母に対する身体・性格の領域で，親友にくらべ，自己開放性が高い。

これに対して，父または母から暖かい愛情を受けていると認知する大学生は，父または母に対して，家庭生活および進学・就職の領域で，親友にくらべ，自己開放の程度が高く，さらに，女子の母に対する身体・性格の領域も，同様である。

このようにみてくると，父または母から暖かい愛情のある養育をうけていると認知する青年は，父または母に対する自己開放の程度が，親友に比べ，家庭生活および進学・就職の領域で高いことがわかる。さらに，このことは，中学生の場合，人生・社会観および身体・性格などの領域に関して，あてはまる。

Ⅳ　討　　論

われわれは，困った場面における自己開放性についての一研究（久世・蔭山，1972）において，大学生は，全般的にみて，他者に対して，自己開放的でないことを報告した。そして，この現象が，青年期の normality を表わすものとすれば，われわれは，自己開放的でない青年を，いかにして理解することができるかの問題を提起した。われわれは，その際，父母をはじめとする周囲の人びとに対する青年の自己開放性は，周囲の人びとに対する愛情や信頼感の認知とかかわることを指摘した。こ

の報告は，両親の愛情の認知と困った場面における自己開放性に関する検討である。

われわれの結果では，父または母から暖かい愛情のある養育をうけていると認知する青年は，そうでないと認知する青年にくらべ，父または母に対して，困った場面において，家庭生活の問題をはじめ，すべての問題領域で，自己開放性の高いことが示された（表6，7，8および表9）。このことは，青年の両親に対する自己開放性，青年の両親との会話，対話を含めたコミュニケーションの可能性は，青年が両親を愛情ある者として認知するか否かとかかわることを示している。これらの結果は，Doster, J. A (1969) らのそれと同様である。また，Jourard, S. M (1971) は，31名の nursing students の母に対する cathexis と母親への自己開放性は .63であり，父に対する cathexis と父親への自己開放性は ,53であることを報告しているので，この結果も，同様の結果を示しているものと考えることができる。

このようにみてくると，われわれの得た結果は，青年の困っ場面における自己開放性と父母の愛情の認知に関する問題であったが，青年が両親に自己を開放する個人的情報の程度は，青年と両親の関係の親密さ 'closeness' すなわち，両者間にみられる愛情とか信頼の index であるように思われる。この中，信頼感の認知との関連は，今後の課題となるのであるが，親子間，世代間の断絶の指摘されている今日，注目すべきデータということができる。

つぎに，父または母から愛情のある養育を受けていると認知する青年は，そうでないと認知する青年にくらべ，父，母のみならず，兄弟姉妹，親友，先生に対しても，自己開放性の高い結果が示されている（表6および表7）。このことから，当然の結果として，父または母から愛情のある養育を受けていると認知する青年は，そうでないと認知する青年にくらべ，われわれの操作した全体としての自己開放性の高いことが指摘できる（表4および表5）。これらの結果は，父，母の愛情が根底にあり，それらの愛情が，兄弟姉妹や先生にも汎化するものと思われ，父，母の認知した愛情の高い青年は，兄弟姉妹や先生に対しても，同様に認知するものと考えられる。そして，兄弟姉妹や先生の認知した愛情の高低が，かれらに対する開放性の高低となって表われたものと理解することができる。すなわち，父または母の愛情の認知の高いほど，他者の愛情の認知も高く，それらが，他者に対する開放性とかかわるものと言うことができよう。このような結果が示されたのは，他者の愛情という側面は，対人関係において，より根底的，根源的な側面であることを示すものであり，他者に対する問題解決の信頼感などとは，異なった側面を示すものなのであろう。いずれにしても，これらの結果から判断すれば，家庭環境をよいと認知する青年は，家庭環境を悪いと認知する青年にくらべ，より自己開放的であることを仮定することができよう。

また，父または母から暖かい愛情のある養育をうけていると認知する中学生は，父または母に対する自己開放性が，親友にくらべ，高い―ただし，女子の父をのぞく―。これに対して，大学生の場合は，父または母より親友に対して，はるかに自己開放的である（表6）。このことは，大学生においては，両親よりも，一般に，親友の占める位置の大きいことを暗示するものといえる。中学生ごろは，しだいに，親友の重要さを知るようになる時期であるが，高校を経て，大学時代ともなれば，青年は，一般に，親友に傾斜する傾向がみられるのであり，われわれの従来の結果と一致している。（久世，1961）。ここに，われわれは，日常生活をはじめ，さまざまの事象に関して，大学生ともなれば，両親から親友へと，その重要性の移行する過程を読みとることができるのであり，親友による社会化過程への影響の可能性を知ることができる。

しかしながら，上述の結果を領域別にみると，父または母から暖かい愛情のある養育を受けていると認知する中学生および大学生は，父または母に対する自己開放性の程度が，親友にくらべ，家庭生活，進学・就職の領域で高い傾向が示されている（表10）。この結果から，両親の愛情の認知の高い群は，父または母に対して，親友よりも，家庭生活および進学・就職の領域で自己開放的である。この家庭生活の領域に関しては，認知した愛情の高低を問わず，親友といえども立入ることの難しい領域であり，また，進学・就職の領域に関しては，父または母の愛情の認知の高い群に関して，父または母に対して，親友よりも開放的なのである。すなわち，領域がどのような意味をもつかによって，青年の父母とのコミュニケーション，対話の可能性は，親友よりも開かれている。

したがって，父または母から暖かい愛情を受けていると認知する青年が，父または母と親友に対して，どの程度，自己を開放するかは，当面する問題・領域によって異なるものと予想することができる。

V　結果の要約ならびに今後の展開

われわれは，青年の困った場面における自己開放性の程度を明らかにし，それとかかわる要因の検討を行なっ

ている。そして，青年の自己開放性とかかわる一要因として，両親の養育態度，とくに，愛情の側面を問題とした。すなわち，青年が父母に対して自己を打ち明ける程度は，青年の認知した父母の養育態度，とくに，愛情の側面と関連をもつことを予想した。「父または母から暖かい愛情のある養育を受けていると認知する青年は，そうでないと認知する青年に比べ，父または母に対して，自己開放の程度が高いであろう。」

この予想を検討するため，われわれは，困った場面における自己開放性に関して，「家庭生活」，「身体・性格」，「勉強・成績」，「友人関係（異性関係を含む）」「学校生活（教師との関係を含む）」，「進学・就職」「人生・社会観」の7領域21項目で構成した質問紙を用いて，父，母，兄弟姉妹，親友および先生に，どの程度自己を打ち明けるかを記述させた。また，両親の愛情の認知は，Heilbrun A. B.（1964）のいう8つの様式を参考にして作成した。

父または母の愛情の認知と困った場面における父または母に対する自己開放性に関して，得られた結果は，われわれの予想どおりであり，(1)父または母から愛情のある養育を受けていると認知する青年は，そうでないと認知する青年に比べ，父または母に対して，すべての領域（家庭生活をはじめとする7領域）に関して，自己開放性の程度の高い（表6，7，8および表9）ことが示された。

つぎに，われわれは，上述の予想の検討のさい，以下の結果をうることができた。(2)父または母から愛情のある養育を受けていると認知する青年は，そうでないと認知する青年に比べ，父，母のみならず，兄弟姉妹，親友先生に対しても，自己開放性の程度が高く（表6および表7）さらに，全体としての自己開放性の高い（表4および表5）ことがわかった。また，(3)父または母から愛情のある養育を受けていると認知する青年は，父または母に対する自己開放性の程度が，家庭生活および進学・就職の領域で，親友よりも，高い傾向が示されている（表10）。したがって，このことは，父または母から暖かい愛情を受けていると認知する青年が，父または母と親友に対して，どの程度，自己を開放するかは，領域によって異なるということもできる。

以上において，われわれは，自己開放性とかかわる要因として，両親の愛情の側面を取り上げた。そして，父または母から愛情のある養育を受けていると認知する青年は，そうでないと認知する青年にくらべ，父または母に対して自己開放の程度の高いであろうことを予想した。結果は，その予想を支持する方向を示した。われわれは，自己を開放する個人的情報の程度は，両者の関係の親密さを表わすものと考えている。こうして，愛情の側面の検討とともに，問題の節において指摘しておいたように，両親の力（power）に関連する問題解決に対する信頼感の検討が必要である。さいわい，われわれは，同じ被験者に，問題解決の信頼度を問うているので，両親を含めた他者に対する問題解決の信頼感と自己開放性の関連を検討することが残されている。

つぎに，われわれの得た結果は，中学生および大学生のそれであった。自己開放性に関連する要因として，他者の愛情の認知がかかわることは，高校生や大学生と同じ年令の勤労青年においても，あてはまるものであろうか。学校生活を送る青年と勤労青年の比較検討が必要である。さらに，これらの関係は，教師と生徒，職場の上司と勤労青年との関係においても，適用可能かの検討が必要になる。

最後に，われわれは，得られた資料から，あらためて，社会化過程における両親と親友の位置づけに関する検討が必要になる。青年の行動に決定的な力を及ぼすのは，両親であるのか，親友であるのか。青年の社会化されていく過程において，人格形成におよぼす両親，親友の役割は，問題の領域・内容といかにかかわるかについて，あらためて検討することが必要になった。このテーマは，青年心理の基本的テーマの一つである。

おわりに

この研究を進めるにあたって，多くの方々から，ご協力を頂いた。また，結果の整理・集計に際しては，名古屋大学教育学部教育統計機械室の電算機ＮＥＡＣ1240を使用した。したがって，教育学部の水野先生や佐々木嬢らにご迷惑をおかけした。ここに，ご援助頂いた方々に深く感謝の意を表します。

文　献

Doster, J. A. & Strickland, B. R. 1969 Perceived child-rearing practices and self-disclosure patterns, J. *consult, clinic psychol.* *33*, 382.

Heilbrun A. B, Jr. 1964 Parental model attributes, nurturant reinforcement and consistency of behavior in adolescents. *Child developm.* *35* 151-167.

Jourard. S, M, & Laskow, P. 1958 Some factors in self-disclosure. *J. abnorm. soc. psychol.*, *56*, 91-98.

Jourard S. M 1971 *Self-disclosure: an experi-*

原　　著

mental analysis of the transparent self. Wiley Interscience.
蔭山英順・続有恒・久世敏雄ほか　1972　中学生の困った場面における自己開放性について　名古屋大学教育学部紀要（教育心理学学科）19
加藤隆勝　1965　中学生における自己の閉鎖性と開放性　岐阜大学学芸学部研究紀要　人文科学 14
久世敏雄　1961　青年期の対人関係に関する研究(1)　日本教育心理学会第3回総会発表
久世敏雄・蔭山英順　1972　困った場面における自己開放性についての一研究（印刷中）
依田　新　1963　青年心理学　培風館

PERCEPTION OF PARENTAL AFFECTION IN CHILD-REARING AND SELF-DISCLOSURE IN DIFFICULT SITUATIONS

Toshio KUZE, Aritsune TSUDZUKI, Hidenori KAGEYAMA, and 'KASO' Group.

Among the factors which are related to the degree of self-disclosure in the difficult situations met by the young people, the present study investigates only the parental attitude of child-rearing, especially the aspect of affection.

The questionnaire for the investigation is consisted of two parts. In the first part, there are eight items representing the parental attitude of child-rearing and perceived parental affection which are adapted from A.B. Heilbrun's. (1964) The subjects are requested to check one of three degrees (0, 1, or2) of perceived parental affection for each item. In the second part there are twenty-one items representing seven difficult situations; (1) home and family situations, (2) physical feature and personal character, (3) academic achievement, (4) friend relationship, (5) school life and teacher, (6) educational and vocational future, and (7) philosophy of life and religion. The subjects are requested to check one of three degrees (0,1,or2) of self-disclosure to father, mother, brothers and sisters, friends, and teachers for each item. The subjects are 169 high school boys and 164 girls, and 194 college males and 201 females in Nagoya city. The investigation was conducted in September of 1971 for high school and in January and February of 1972 for college.

The results of the investigation are as follows:

(1) More the subjects perceive their parental affection highly, more they disclose themselves to their parents in all seven difficult situations. (Table 6,7,8,9)

(2) The subjects highly perceiving their parental affection tend to disclose themselves not only to their parents but to brothers and sisters, friends, and teachers (Table 6,7), and they show high degree of self-disclosure in general (Table 4,5,).

(3) The subjects highly perceiving their parental affection tend to disclose themselves more to their parents than to their friends at the difficult situations of the family life and the educational and vocational future (Table 10). Therefore how highly the subjects disclose themselves to their parents depends on the different situations.